



丸子中央病院

MARUKO CENTRAL HOSPITAL

病院概要

2025年度版



丸子中央病院の理念

本院は、質の高い医療・介護の提供を通じて、地域のしあわせ創りに貢献します。

丸子中央病院の方針

1. 患者さんの権利の尊重と療養環境の充実
2. 医療従事者の育成とチーム医療の推進
3. 健全な病院経営
4. 地域おこしへの貢献

丸子中央病院職員の倫理規定

1. 職員はすべての患者さんに対して常に平等に、温かく接しなければならない。
2. 職員は、患者さんに十分な情報を提供したうえで、患者さんの知る権利、自己決定の権利を尊重しなければならない。
3. 職員は守秘義務を厳守し、個人情報の保護に努めなければならない。
4. 職員は、自己研鑽に努め、医学の進歩と発展に貢献し、安全で信頼される医療の提供に努めなければならない。
5. 職員は、医療法人丸山会丸子中央病院職員としての自覚を持ち、お互いを尊重し、協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

丸子中央病院患者さんの権利憲章

丸子中央病院は、患者さんの利益を守るためにこの権利憲章を制定します。

本院の職員は、この権利憲章を守り、患者さんの医療への主体的な参加を支援いたします。

1. 患者さんは、人としての尊厳を尊重される権利があります。
2. 患者さんは、平等な医療を受ける権利があります。
3. 患者さんは、納得できるまで説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは、診療録の開示を求める権利があります。
5. 患者さんは、自ら受ける医療を選択し、あるいは拒否する権利があります。
6. 患者さんは、担当医以外の医師の考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
7. 患者さんは、プライバシーを守られる権利があります。



特定医療法人 丸山会
まる やま かずとし
理事長 丸山 和敏

地域と共に65年 丸子中央病院の歩みと挑戦

当院は丸山大司が昭和34年に小県郡丸子町上丸子（現上田市上丸子）に丸山医院を開業したことに端を発します。昭和40年に丸子中央病院となり、その後4期の増築工事を経て昭和60年には総合病院の認可を受け330床の「丸子中央総合病院」へ名称変更しました。

丸山医院開業から50年が経過し、超高齢化など社会構造の大きな変化によって地域や医療の在り方が大きく変わりました。その変化に対応するために病院は平成25年8月、上田市中丸子に新築移転しました。同時に新病院の名称を「丸子中央病院」に戻し、開業当時の原点に立ち返り地域に根ざした病院を目標に再スタートしました。療養環境も大事な治療と考え、廊下や病室はゆとりあるスペースを確保し、大きな窓を配置した病棟の食堂からは浅間山、烏帽子岳を望めます。健診部門は9階に配置し、ホテルのロビーのようなゆったりした空間を目指しました。検査の後の食事は病院専属の山田康司シェフによる料理を提供し、多くのドック受診者の皆様より好評を頂戴しております。また9階のレストランでは平日に限りですが、一般の方にも山田康司シェフのランチを味わっていただいております。

移転後は子育て支援として病児保育センターを開設しました。また一部の病床を介護医療院に転換し（97床）、要介護高齢者の長期療養を支える施設を整備しました。

医療の質を高めるため、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価3rdG:Ver.2.0の認定を受けました。また医療

従事者を対象としたAHA（アメリカ心臓協会）公認「BLS/ACLSコース」を定期開催しており、当院職員の90%以上が受講しています。また、一般の方を対象とした心肺蘇生法の普及活動「PUSHプロジェクト」も実施し、地域の救命率向上に取り組んでいます。

地域貢献として様々な地域のイベントに積極的に参加や協力、或いは主催者として開催していましたが新型コロナウイルス感染症の影響により多くの活動は休止しておりました。このような状況下でもオンラインでの市民公開講座やYouTubeを使って医療情報の提供を続けておりました。現在は新型コロナウイルス感染の状況を見ながらロビーコンサートなど徐々にイベント開催を増やしております。

一昨年から始めた約120種類の薔薇を集めての「バラ祭り」は多くの方が見学にお越しになり、ご好評をいただいております。8月末には毎年恒例の「花火大会」も開催し地域の方々に笑顔を提供したいと考えております。冬には上田女子短期大学様のデザインで、アリオ上田様と同じテーマで病院をイルミネーションで飾っております。株式会社ツルヤ様とは10年前より共催で山田康司シェフによる栄養のバランスを考えた、体に優しい美味しいレシピ「いきいきレシピ」をご家庭にお届けしています。

開院から65年が経過し、地域に即した医療・介護サービスはもちろん、それ以外の分野でも当法人の理念である「地域のしあわせ創り」に全力で取り組んでまいりますので引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。



特定医療法人 丸山会
丸子中央病院
さとう ゆきとし
病院長 佐藤 之俊

地域のしあわせ創り ～支え合い・助け合う地域へ～

このたび勝山先生から病院長を引き継ぎました佐藤之俊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず自己紹介ですが、私の実家は隣の旧武石村です。当院の前身である丸山医院の開院間もなくこの地に生まれ、丸子の飯沼、郷里の武石、そして上田の神科と上小地区で育ちました。私の専門は呼吸器外科という外科のひとつで、がん専門病院や大学病院で働いてきましたが、それに加えて、埼玉県の地域医療支援病院での経験も積みました。故郷を離れて東京に出てから45年以上も経ちましたが、年ごとに「帰心矢の如し」という言葉をかみしめるようになりました。故郷の人々と美ヶ原高原、独鈷山、依田川といった自然が忘れられず、戻ってまいりました。今までの経験をもとに故郷に少しでも役立つことが今の大きな夢です。

少子高齢化社会の日本ですが、その中でも信州は「健康寿命」で全国の見本ともいえる地域です。健康と確かな日常生活、そして豊かな暮らしを守るために、さらには、より健やかな地域社会を実現するために、この丸子中央病院から多くを発信したいと思えます。今やスマホやAIの時代ですが、私たち人間にあってスマホやAIにないもの、それは「笑顔」と「心のこもった挨拶」ではないでしょうか。本当の意味で、スマホやAIでは病を治す

ことはできません。治せるのは笑顔を持つ人間です。それが丸子中央病院にはあります。皆様の健康と「幸せ」が職員の幸せですので、職員一人ひとりが笑顔と挨拶で皆様と明るく語り合えるのが地域に根差した病院の姿であり、そうあり続けたいと思います。

地域の皆さんの幸せのために、医療と介護の垣根を越えて多職種が連携し、住み慣れた自宅や地域で安心して暮らせる体制づくりを一層進めてまいります。予防医療や健康教育の充実、生活習慣病の早期発見にも取り組み、地域のみなさんが年を重ねても自分らしく暮らせる社会作りをお手伝いします。学校や企業、行政とも連携し、「支え合い・助け合う地域づくり」に貢献していきます。私のふるさとが人と人でつながり、ぬくもりある輪が広がっていく、そんな場所でありつづけたいと願っています。

半世紀を超えた歴史を持つこの病院は、次のステップへと発展しています。東京への一極集中や各県では大都市への集中が深まる中で、当院は丸子、武石、依田窪そして上田地域の他の病院やクリニックとの連携、大学病院や基幹となる病院との協力により、住民の皆さんの「しあわせ創り」を進めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



沿革

- 昭和 34 年 丸山大司、小県郡丸子町に丸山医院開業
- 昭和 40 年 「医療法人丸山会 丸子中央病院」に新築移転
61 床、5 つの診療科を設置（第 1 期新築工事）
- 昭和 41 年 救急指定病院の認定を受ける
- 昭和 42 年 85 床に増床（第 2 期新築工事）
- 昭和 44 年 151 床に増床（第 3 期新築工事）
- 昭和 46 年 人工透析を開始
- 昭和 47 年 更生医療機関に指定
特定医療法人に認定
- 昭和 53 年 病床数 267 床へ増床（第 4 期新築工事）
- 昭和 60 年 総合病院の認可を受け「丸子中央総合病院」となる
- 昭和 61 年 330 床に増床
「上田透析クリニック」開設
- 平成 8 年 「そよ風訪問看護ステーション」開設
- 平成 10 年 丸山和敏、第二代病院長に就任
- 平成 15 年 丸山大司理事長が丸山会 会長に就任
丸山和敏が理事長・院長を併任
- 平成 25 年 勝山努、第三代病院長就任
旧カネボウ丸子工場跡地へ新築移転 297 床
「丸子中央病院」に改称
- 平成 27 年 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価 3rdG : Ver.1.0 認定取得
財団法人日本病院会日本人間ドック学会による人間ドック・健診施設機能評価認定取得
- 平成 28 年 地域包括ケア病棟開設
介護療養型医療施設に愛称「ケアあおぞら」と命名
- 平成 29 年 企業主導型保育園「あったかステーション わくわく」開設
- 平成 30 年 DPC 対象病院として包括請求業務を開始
丸子中央病院介護医療院「ケアあおぞら」を開設（許可病床数 199 床）
長野県発達障がい診療地域連携病院として始動
- 平成 31 年 「病児保育センター」・「医療と介護の総合相談ステーション」開設
- 令和 2 年 発熱外来を設置 院内 PCR 検査開始
- 令和 4 年 正面玄関エリアに「ローズガーデン」オープン
- 令和 6 年 「ケア大宮 花の丘」が介護医療院に転換
- 令和 7 年 介護老人保健施設「ケアまるこ」を「ケアまるこデイサービスセンター」に転換



丸子中央病院 シンボルマーク

丸子中央病院に携わるひとりひとりが地域の皆さまのニーズに柔軟に対応していく姿勢・情熱を、躍動感のある赤色の楕円をベースにしたデザインで表現しています。

地域の発展を医療・福祉から支え、地域と共に成長しつづける思いを楕円の中央上の円でシンボリックに表しています。

人と人が支え合うイメージを丸子中央病院のアルファベット頭文字の「M」に見立てています。

名 称 特定医療法人丸山会 丸子中央病院

開 設 者 理事長 丸山和敏

所 在 地 〒386-0405
長野県上田市中丸子 1 7 7 1 - 1

電 話 0268-42-1111（代表）

F A X 0268-42-1112（代表）

敷地面積 27,561 m²

建築延面積 20,297 m²

建 物 地上 9 階建 耐火鉄骨造り

（2025年4月1日現在）



急性期から在宅までの 継続的な医療・介護の提供

法人内で連携を持ち、患者さん・利用者さん
一人一人を継続的に支援しています



丸子中央病院



一般病棟 (99床)

急な病気になった場合、手術をする場合などにまず入院するのが一般病棟です。病状が最も重い時期、あるいは不安定な時期の治療を行う病棟です。

地域包括ケア病棟 (50床)

病状が回復に向かっても、状況が入院前と異なる場合は、家に帰る準備が必要です。リハビリテーションを行ったり、社会資源の活用等の調整を行い、安心して退院後の生活に移れるよう支援します。

医療療養病棟 (50床)

病状が安定しても、長期間にわたる医療処置が必要な方が入院する病棟です。処置などをしながら退院して自宅で過ごすことを目指します。



介護医療院

「ケアあおぞら」(定員:97名)

病状が安定したものの家での生活が難しく、長期療養が必要な方に御利用いただく施設です。生活の場としての機能を持ちあわせており、居住性に配慮した施設で状態に応じて自立した日常生活を支援いたします。

そよ風訪問看護ステーション

医師・看護師・リハビリテーションスタッフがチームとなり、病院退院後の在宅療養に必要な看護や介護のお手伝いをいたします。



発達外来

長野県から委託を受け2018年より上小圏域の発達障がい診療地域連携病院として始動しました。

地域で医療及び療育的支援を受けやすくするため、関係職種との知識・技術の向上なども担っています。

医師・看護師・作業療法士・言語聴覚士・公認心理士など多職種でお子さんにとってより良い支援につながるようサポートしています。



ひまわり会

院内ボランティア「ひまわり会」が外来で患者さんをアテンドします。
丸山医院開院当初から働いていた OB・OG が所属しており、受診までの間、安心して過ごすことができます。

丸山会関連施設

介護老人保健施設

長野県 ■ 御所苑
東京都 ■ ケア新小岩
■ ケア東久留米

〒386-0033 長野県上田市御所 666 電話 0268-22-2222
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩 2-1-12 電話 03-5671-6003
〒203-0052 東京都東久留米市幸町 3-11-10 電話 042-479-2600

介護医療院

長野県 ■ 丸子中央病院「ケアあおぞら」
埼玉県 ■ ケア大宮 花の丘

〒386-0405 長野県上田市中丸子 1771-1 電話 0268-42-1111
〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷 975-5 電話 048-620-2400

デイサービス

長野県 ■ ケアまるこデイサービスセンター 〒386-0404 長野県上田市上丸子 331-13 電話 0268-42-1110

診療所

■ 上田透析クリニック (血液透析モニター 49台) 〒386-0033 長野県上田市御所 674 電話 0268-27-3006



丸子中央病院概要

2024 年度 病床利用率・平均在院日数

	許可病床数	稼働病床数	病床稼働率(%)	平均在院日数(日)
一 般 病 棟	99	99	93.0	18
地域包括ケア病棟	50	50	92.1	
療 養 病 棟	50	50	93.1	
介 護 医 療 院		97	96.8	

2024 年度実績

新入院患者数	2,669 名	救急患者数	9,299 名 (うち入院 1,211 名)
延入院患者数	67,414 名 (1 日平均 184.7 名)	救急車搬送数	1,370 名
		紹介患者数	4,950 名
延外来患者数	129,238 名 (1 日平均 354.1 名)	紹介率 (日本病院会 QI プロジェクト)	41.1%
初診患者数	12,249 名	逆紹介数	4,869 名
		逆紹介率 (日本病院会 QI プロジェクト)	44.6%

職員数 592 名 (常勤 487 名、非常勤 105 名 (常勤換算)) (2025 年 5 月現在)

	職種総数	常勤 職員数	非常勤 (常勤換算)
医師	36.3	28	8.3
歯科医師	2	2	0
看護要員 合計	201.3	159	42.3
保健師	6.7	6	0.7
看護師	121.3	92	29.3
准看護師	63.6	56	7.6
看護補助者	9.7	5	4.7
薬剤師	12.7	11	1.7
臨床検査技師	18.1	12	6.1
診療放射線技師	11.5	11	0.5
管理栄養士	9	9	0
リハビリ部門 合計	53.6	51	2.6
理学療法士	31.4	31	0.4
作業療法士	14.4	13	1.4
言語聴覚士	6.8	6	0.8
公認心理師	1	1	0
診療情報管理士	3	3	0
臨床工学技士	14	14	0
医療ソーシャルワーカー	5	5	0
介護支援専門員	7	7	0
介護福祉士・介護職員	86	73	13
事務部門	102.4	87	15.4
その他職種	30.4	15	15.4
職員総数	592.3	487	105.3

医療安全推進者 17 名 (専任・兼任)
感染管理担当者 5 名 (専任・兼任)

標榜診療科（2025年5月1日現在）

内 科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科
糖尿病内科	腎 臓 内 科	腎臓内科（人工透析）	神 経 内 科
心 療 内 科	外 科	呼吸器外科	心臓血管外科
整 形 外 科	脳神経外科	形 成 外 科	精 神 科
膠原病リウマチ科	小 児 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科
眼 科	耳鼻いんこう科	リハビリテーション科	放 射 線 科
救 急 科	歯 科	歯科口腔外科	麻 酔 科

施設基準・承認事項（2025年5月1日現在）

基本診療料

- ・情報通信機器を用いた診療に係る基準
- ・機能強化加算
- ・初診料（歯科）の注1に掲げる基準
- ・歯科外来診療医療安全対策加算1
- ・歯科外来診療感染対策加算1
- ・一般病棟入院基本料
- ・療養病棟入院基本料
- ・救急医療管理加算
- ・超急性期脳卒中加算
- ・診療録管理体制加算2
- ・医師事務作業補助体制加算1
- ・急性期看護補助体制加算
- ・療養環境加算
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・療養病棟療養環境加算1
- ・リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算
- ・栄養サポートチーム加算
- ・医療安全対策加算2
- ・感染対策向上加算1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・後発医薬品使用体制加算1
- ・病棟薬剤業務実施加算1
- ・データ提出加算
- ・入退院支援加算
- ・認知症ケア加算
- ・せん妄ハイリスク患者ケア加算
- ・精神疾患診療体制加算
- ・地域包括ケア病棟入院料1及び地域包括ケア入院医療管理料1
- ・入院時食事療養／生活療養（Ⅰ）

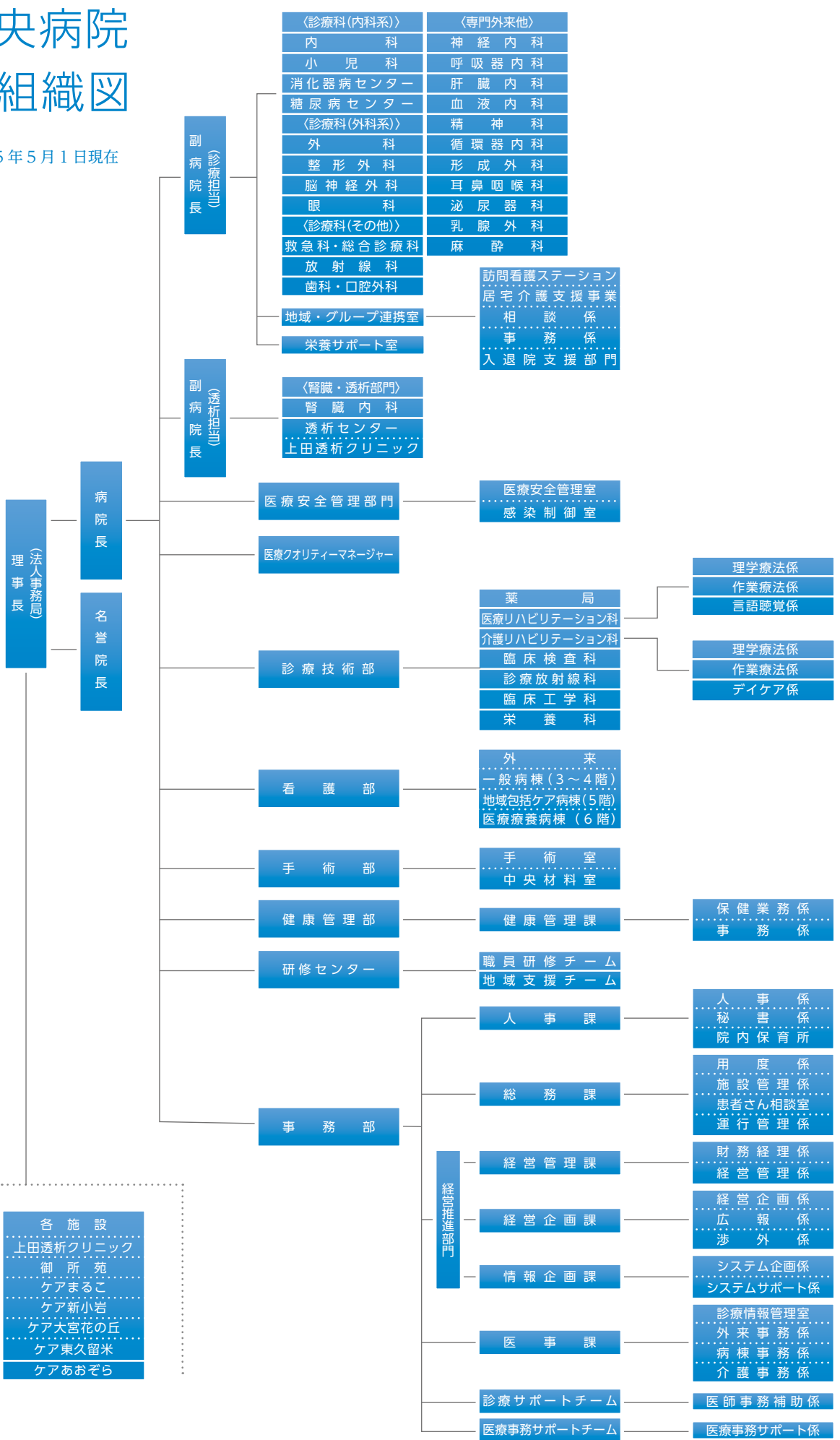
特掲診療料

- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・二次性骨折予防継続管理料1
- ・二次性骨折予防継続管理料2
- ・二次性骨折予防継続管理料3
- ・下肢創傷処置管理料
- ・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算
- ・外来腫瘍化学療法診療料2
- ・別添1の「第14の2」の1の（Ⅰ）に規定する在宅療養支援病院
- ・がん治療連携指導料
- ・こころの連携指導料（Ⅱ）
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料1
- ・歯科治療時医療管理料
- ・在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
- ・検体検査管理加算（Ⅰ）
- ・検体検査管理加算（Ⅱ）
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・神経学的検査
- ・コンタクトレンズ検査料1
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・画像診断管理加算1
- ・画像診断管理加算2
- ・CT撮影及びMRI撮影
- ・冠動脈CT撮影加算
- ・心臓MRI撮影加算
- ・無菌製剤処理料
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・エタノールの局所注入（甲状腺）
- ・エタノールの局所注入（副甲状腺）
- ・人工腎臓
- ・導入期加算1
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・ストーマ合併症加算
- ・口腔粘膜処置
- ・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
- ・歯科技工士連携加算2
- ・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
- ・緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・胃瘻造設術（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術）
- ・輸血管理料Ⅱ
- ・輸血適正使用加算
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・レーザー機器加算
- ・麻酔管理料（Ⅰ）
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・看護職員処遇改善評価料42
- ・外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
- ・歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
- ・入院ベースアップ評価料51

丸子中央病院

組織図

部署別 2025 年 5 月 1 日現在



役員

2025 年 5 月 1 日現在

丸 山 会 理 事 長	丸山 和敏 (まるやま かずとし)
常 務 理 事	長崎 信之 (ながさき のぶゆき)
法 人 事 務 局 長	田中 克典 (たなか かつのり)
丸 子 中 央 病 院 病 院 長	佐藤 之俊 (さとう ゆきとし)
名 誉 院 長	勝山 努 (かつやま つとむ)
副 病 院 長	松澤 賢治 (まつざわ けんじ)
透 析 担 当 副 病 院 長	都筑 重利 (つづき しげとし)
特 別 顧 問	岡元 和文 (おかもと かずふみ)
顧 問	松本 あつ子 (まつもと あつこ)

診 療 部

局				長	平野 賢 (ひらの けん)
医 科 系 診 療 部				長	杉尾 芳紀 (すぎお よしのり)
外 科 系 診 療 部				長	橋倉 泰彦 (はしくら やすひこ)
内 科 部				長	渡邊 光久 (わたなべ みつひさ)
					松澤 賢治 (まつざわ けんじ)
					加藤 裕子 (かとう ゆうこ)
					小山 潤 (こやま じゅん)
					中島 恒夫 (なかじま つねお)
					沖山 葉子 (おきやま ようこ)
					石川 守 (いしかわ まもる)
					樋口 雅隆 (ひぐち まさたか)
					鈴木 彰 (すずき あきら)
					伊古美 文隆 (いこみ ふみたか)
					中嶋 太郎 (なかじま たろう)
小 児 科 部			長	齊間 陽子 (さいま ようこ)	
皮 膚 科 部			長	松倉 節子 (まつくら せつこ)	
循 環 器 内 科 部			長	平野 賢 (ひらの けん)	
外 科 部			長	杉尾 芳紀 (すぎお よしのり)	
				鈴木 史恭 (すずき ふみたか)	
救急科・総合診療科 部			長	岡元 和文 (おかもと かずふみ)	
麻 酔 科 部			長	大畑 淳 (おおはた じゅん)	
				岡元 和文 (おかもと かずふみ)	
消化器病センター		センター	長	松澤 賢治 (まつざわ けんじ)	
整 形 外 科 部			長	東山 祐介 (ひがしやま ゆうすけ)	
				雨宮 弥生 (あめみや やよい)	
				加藤 広空 (かとう ひろたか)	
眼 科 部			長	野原 雅彦 (のほら まさひこ)	
脳 神 経 外 科 部			長	塚田 利幸 (つかだ としゆき)	
放 射 線 科 部			長	星野 博信 (ほしの ひろのぶ)	
歯 科 部			長	山田 哲男 (やまだ てつお)	
				興水 大比古 (こしみず ひろひこ)	
手 術 部		部	長	岡元 和文 (おかもと かずふみ)	
透 析 セ ン タ ー		センター	長	橋倉 泰彦 (はしくら やすひこ)	

各 部 門

地域・グループ連携室長	高末 真知子 (たかすえ まちこ)
看 護 部 長	岡部 由美 (おかべ ゆみ)
医 療 安 全 管 理 室 長	小山 潤 (こやま じゅん)
健 康 管 理 部 長	橋倉 泰彦 (はしくら やすひこ)
研 修 セ ン タ ー 長	橋倉 泰彦 (はしくら やすひこ)
事 務 部 長	田中 克典 (たなか かつのり)
事 務 部 次 長	池内 淳子 (いけうち じゅんこ)

つながる地域とのきずな ぬくもりある医療の提供

働く職員の多くがこの丸子地域で育ち、幼いころから当院を受診し、地域と共に歩んできました。病院にお越しいただく患者さんの中にも、職員の家族やご近所さんが多く、会話の中には慣れ親しんだぬくもりを感じとれます。今日も病院の中では、地域のみなさんによる写真・作品展示や、コンサートなどが行われています。私たちの役割は、患者さんはもちろん、その先にあるご家族、そして地域住民にとっても“しあわせ”を感じられる環境を提供することです。医療・介護を通じ「この病院でしかできないこと」を探しています。そのために、住民参加の地域医療づくり、そして何より患者さんの意思を尊重できる人材育成を大切に考えています。

院内施設紹介



人間ドック

健康的な生活を送っていただくために、お一人、お一人に合わせた丁寧な説明を心がけています。健診後は、空港のゆったりしたラウンジをイメージした、9階ドック専用ラウンジでフランス料理の山田シェフによるお食事を提供します。



医療と介護の 総合相談ステーション

「地域医療連携室」「入退院支援室」「医療福祉相談室」「訪問看護ステーション」「訪問リハビリテーション」「居宅介護支援センター」を1か所に集約し、地域住民の方々や患者さん、利用者さん、ご家族等からの医療・介護に関するご相談を一体的にお受けしています。

9F 人間ドック

8F 介護医療院 ケアあおぞら

7F 介護医療院 ケアあおぞら

6F 医療療養病棟

5F 地域包括ケア病棟

4F 一般病棟（外科系）、手術室

3F 一般病棟（内科系）、透析センター

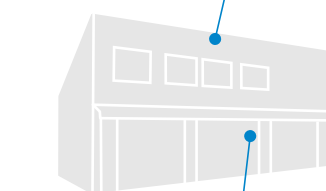
2F リハビリテーション科、デイケア
発達外来

1F 医療と介護の総合相談ステーション
外来、消化器病センター、
臨床検査科、放射線科、
ER、薬剤部、栄養科、医事課、売店

9F レストラン「ヴァイスホルン」

2F 小児科
病児保育センター

2F 研修センター



1F 丸子中央病院保育園
あったかステーション
わくわく

透析センター



患者さんに安心・快適な環境で治療を受けて頂けるよう、最新の患者監視装置を備え、一人一人のスペースも充実しています。外来での臨時透析や緊急透析にも対応し、関連施設の上田透析クリニックはもちろん、地域の透析医療機関とも連携しています。

消化器病センター

特殊光観察（NBI）可能な光源システムを導入し、電子内視鏡スコープを用いた上部消化管内視鏡、大腸内視鏡による観察・精査（拡大内視鏡、超音波内視鏡）が可能です。また内視鏡を用いた治療（EMR、ESD、ERCPなど）を行っており、必要に応じてカプセル内視鏡を用いた小腸検査も施行しています。



あったかステーションわくわく



内閣府の企業主導型保育事業の制度を利用した保育園です。職員や、地域のみなさんがご利用いただけます。地域で安心してお父さん、お母さんが働き続けられるように、仕事と子育ての両立を支援します。



シミュレーション教育を中心とした研修体制 ～地域を支える人になる～

当院は「研修センター」を設置するとともに、研修に必要な各種シミュレーターを備えています。

これは、「知っている」と「できる」との間に存在するギャップを埋める教育手法として近年注目されているシミュレーション教育の場を院内外に提供し、地域の医療水準向上をはかるためです。

看護学生、新人看護師だけでなく、再就職者やベテラン職員、医師までがシミュレーション研修に参加し、ともに学びながら「実践力の習得」と「良好なコミュニケーションによるチーム医療」に向けて励んでいます。また導入しているオンラインテキストにより「世界標準」を目指している点は当院の特長と考えています。理学療法士、薬剤師などの各職種に対しても「急変対応研修」を実施しています。

これらのシミュレーション研修を「成人教育理論」に基づいて行うために、指導者は米国の指導者研修会を修了しています。



身体みがきプロジェクト・スポーツサポート活動

近年、子供達の体力低下や運動の二極化、子供ロコモなど様々な健康問題が取り上げられています。子供の頃の運動習慣や生活習慣は生涯健康に生活する上でとても重要です。

リハビリテーション科では2018年より“身体みがきプロジェクト”として上小地区の小中学校で体力向上、障害予防、姿勢改善を目的に運動指導や講演活動、個別相談を行ってきました。今年度より運動器検診のサポート活動にも取り組んでいく予定です。

また、同年よりU-15バスケットボールクラブチームのスポーツサポート活動にも取り組んでいます。成長期やオーバーユースにより練習や試合に参加できない選手を無くすことを目的に活動しています。具体的にはストレッチ指導やケアトレーニング、子供達への身体の教育を2回／月行っています。ここ数年でチームスタッフや親御さんの意識も高まり個別での相談件数も増えてきています。



PUSHコース

丸子中央病院は、大阪ライフサポート協会と日本心臓財団がすすめる「PUSHプロジェクト」に参加しています。地域の皆さんには、胸骨圧迫+AEDだけの誰でもできる心肺蘇生の研修会を地元の小中学校、警察署、一般企業などで開催しています。



感染対策チーム

丸子中央病院感染対策チーム（ICT）は、施設を利用するすべての方を感染症から守ることを目的に活動しています。感染症の対策として、1つは「感染症の発生を予防すること」、もう1つは「感染症が発生した場合の事後対応」が挙げられます。日常的な活動としては、予防を重点的に行っています。例えば、感染対策に必要な情報を収集、その情報を分析し、施設の傾向を把握し、治療や、感染対策の研修などに活用しています。万一、施設内で感染症が発生、拡大した場合には、迅速に事後対応を行い、感染症によるダメージを最小限に留めるようICTが活動しています。COVID-19などの世界規模の大きな流行が発生した場合も同様に、病院を安心して利用できるように、感染対策を実施しています。



駅よりバスをご利用の方

- 北陸新幹線・しなの鉄道線 上田駅お城口バス停、
またはしなの鉄道線 大屋駅バス停より
千曲バス 鹿教湯線 (丸子、鹿教湯方面行き) 乗車
またはJRバス関東 長久保線 (長久保行き) 乗車

※ 当院正面入口に「中央病院前」バス停があります。

※ 朝、夜1便ずつ、「中央病院前」に停車しないバスもございますのでご注意ください。

お車をご利用の方

- しなの鉄道 大屋駅から5km (車で約10分)
- 上田菅平ICから浅間サンライン、大屋駅前を通り13km (車で約25分)
- 東部湯の丸ICから県道81号線丸子東部インター線を通り11km (車で約25分)

特定医療法人丸山会



〒386-0405 長野県上田市中丸子1771-1

電話 0268-42-1111 (代表) FAX 0268-42-1112

丸子中央病院
ホームページ
<https://maruko-hp.jp>

